

令和4年度第1回印西市ふるさとづくり運営会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年8月30日（火）午前10時00分から午前11時30分まで
- 2 開催場所 印西市役所農業委員会会議室
- 3 出席者 坂巻栄一委員、五十嵐盛春委員、下村節子委員、中山亜矢子委員、
奥田信康委員、本多伸好委員、芳賀一男委員、高橋徹委員、菰岡翼委員
- 4 欠席者 河村剛光委員
- 5 事務局 経済振興課山崎課長、大浦室長、阿部主査、岡田主査補
- 6 傍聴者 なし
- 7 議 事 (1) ふるさとづくり運営基金活用事業について
- 8 議事録 (要点筆記・一部要約)

○事務局より説明

○質疑

委 員 インターネット上で効果検証を行うとのことだが、ネットを使えない人を考慮して、イルミネーション等を見に来た人の生の声も聞いたほうがいいのではないか。印西市は若年人口の割合が高いので、小学生の意見等を幅広く聞いてみてはどうか。

委 員 順天堂大学に支出している広告料が適切かどうか精査するため、他の箱根駅伝出場校と広告料を比較すべき。当初はどういった経緯で順天堂大学に広告を出すことになったのか。

事 務 局 印西市と順天堂大学は包括連携協定を平成26年に結んだ。令和2年に世界陸連の規定改正によりユニフォームへの広告掲出が解禁され、全国に先駆けて青山学院大学と妙高市が契約を結んだ。当市もこれに着目し、全国2例目として広告掲出を始めたもの。

委 員 広告掲出先を順天堂大学に限定する必要はないので、例えば北総線のラッピング電車のように、掲出先を分散させてもいいのではないか。

事 務 局 北総線のラッピング電車は交通政策課が主体となった取り組みだが、経済振興課でもイルミライの中吊り広告を出す等の取り組みを行っている。また、ちばレインボーバスの後援事業として、ラッピングバス運行にも取り組んでいる。

- 委員 取組結果を記録に残し、会議資料に載せてフィードバックしてほしい。来年度の事業実施を検討する際、結果がなければ何をベースに判断すればいいかわからない。
- 事務局 イルミネーション実施団体支援・順天堂大学に係る広告料ともに、令和3年は一般財源により実施しており、基金の利用は今年度からとなっているため資料に掲載しなかった。次回以降、取組結果は資料化して配布する。なお、当該資料は公開資料となる。
- 委員 取組結果を受けて、次年度も事業を継続する／しない、増やす／減らすといった判断をするための基準を設けたほうがよい。基準がなければ辞め時を見失うこともあるし、昨年やっていたから今年もやる、という判断の仕方は間違っていると思う。
- 事務局 令和5年度事業に盛り込んでいる「シティプロモーション効果検証業務委託」によって、指摘のような基準を検討していきたいと考えている。
- 委員 会計検査に耐えられる程度の効果検証、という意味では、印西市は広告主という立場になるので、順天堂大学側からエビデンスとして広告露出回数を報告してもらうことは可能であると考え。ただしその数値だけでは、広告掲出先の妥当性の判断・事業継続可否の判断を行えるほどのエビデンスにはならないため、効果検証業務委託の結果を受けて、何らかの基準を設けるべきだと考える。
- 委員 順天堂大学との連携協定が無償の協力関係だったとしても、実際には子ども向けスポーツ教室等を通じて、順天堂大学から役務の提供を受けているかと思う。役務の対価を「広告料」という形で支払いながら、エビデンス・判断基準・広告効果が可視化されていない現状では、「何のために連携しているのか」が不透明な印象を与えてしまう。
- 委員 効果検証業務委託はどの程度の規模で実施するのか。そもそも印西市のプロモーションは、どういった層をターゲットにして行われているものなのか。
- 事務局 令和3年度に策定したプロモーションプランでは、20～30代の子育て世代をメインターゲットとしている。令和2年度に行った効果検証業務委託の結果と併せて、プロモーションプランも提供する。今回の効果検証は20～40代を対象とし、規模は前回と同じく関東1都6県の25,000人を対象としてアンケートを行う予定である。
- 委員 イルミネーション実施団体支援は、どのように周知を行っているのか。また、この取り組みは市内向け、市外向けどちらか。
- 事務局 広報いんざい、および市HPで周知を行っている。ターゲットは両方で、市外には印西市の認知度向上を、市内にはシビックプライドの醸成を図る狙いがある。
- 委員 イルミネーション実施団体支援について、令和4年度予算に比べて、令和5年

度予算が減額されているのはなぜか。

事務局 例年この事業を活用している団体に聞き取りしたところ、電球等の資材は十分なので、ランニングコストを補助してもらった方が助かるという意見が出た。よって資材への補助額を減らして、ランニングコストへの補助を若干増、トータルでは減額としている。資材量が肥大化すると、保管場所に苦慮するという話も聞いている。

委員 転入者に対して、「なぜ印西市に引っ越してきたのか」「引っ越してきた結果どうだったか」といった調査を行えば、市民のニーズが明確になるのではないか。転入者は必ず役所に来るはずなので、窓口で調査を行えばよいかと思う。

事務局 今まで転入者へのアンケートは実施したことがない。関係課と協議し、実現可能性を模索していく。

委員 転出者にも同様に調査を行えば、よりニーズの把握につながるかと思う。

委員 Make Inzai Original の冊子は斬新で良いと思う。移住を考えている人がまず相談するのは不動産屋やマンション会社になるかと思うので、そういった事業者が転入者向けに配るのに適したパンフレットを作成すれば喜ばれるのではないかと思う。

事務局 特定業種に向けた冊子は難しいとは思うが、市の魅力をまとめた冊子が、おのずとそういった役割を果たしてくれればと考えている。

委員 いんざい君も人気があるので、もっと有効活用してもらえればと思う。

委員 流山市は「母になるなら、流山市」をキャッチコピーとし、移住者獲得に成功していると聞いている。ターゲットの年代を限定しすぎると、その年代がいっせいに高齢化してしまうということもあるので、世代循環を意識しておく必要がある。

委員 市内の若い世代、小中学生などに市の魅力を伝えるのも重要かと思う。体操選手と小学生のふれあいイベント等があればいいかと思う。

事務局 小学校駅伝大会に順天堂大学駅伝部の選手を呼び、伴走することになっている。体操部にもスポーツフェスで大学から機材（鉄棒など）を搬入し体操教室やストレッチなどをしていただくことになっている。また、東京オリンピックなどでアメリカ女子体操チーム、オランダ体操チームの事前キャンプ地で使用した世界レベルの施設に市民を招待し、実際に用具に触れる体験会などを行う方向で大学側と調整している。小学校には昨年度印西あるあるカルタの配布等も行った。

委員 移住定住は全国どこの市町村も取り組んでいる課題だが、特効薬のようなものはない。継続して取り組みを続けていくことが大事だと考える。

座長 意見が出そろったとこだが、議事について承認するという委員は挙手をお願いする。

委 員 全員挙手。
座 長 議事について承認されました。

以上

令和4年度第1回印西市ふるさとづくり運営会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和4年9月12日

印西市ふるさとづくり運営会議委員 下村 節子

印西市ふるさとづくり運営会議委員 中山 亜矢子